

Xanthogranulomatous pyelonephritis の病理形態像と 糸球体腎炎にみられる泡沫細胞について

協医科大学第二病理 飯 高 和 成
石 飛 文 雄
栗 山 洋 一
佐 藤 英 章
五月女 茂

Barrie (1948年)が泡沫細胞肉芽腫性慢性腎盂腎炎を指摘して以来、Xanthogranulomatous pyelonephritis (XGPN) の名称による報告がなされているが、慢性腎盂腎炎で定型的な病理形態像を示す例は稀である。本症の間質に出現する泡沫細胞は、中性脂肪、コレステロール、ムコ多糖類を含有し、その形態像は特徴的であるが、XGPN のみの特異像ではなく、遺伝性腎炎をはじめとして、慢性糸球体腎炎、膜性糸球体腎炎、SLE、糖尿病性腎症など、主としてネフローゼ症候群を呈する疾患に際し、比較的高頻度で間質・尿管管まれに糸球体上皮細胞に証明される。しかしこれら泡沫細胞と XGPN の病理発症についてに明確にされていない。

XGPN の病理形態像

本病型を呈する腎盂腎炎は一般的な腎性腎盂腎炎の基本的病像の上に、泡沫細胞増殖を伴った肉芽腫性炎がみられる。この症例は不規則な結節性病巣として、腎実質から被膜周囲の結合織に波及する。結節性病巣の中心部は、しばしば軟化と多数の cell debris を伴った微小濃瘍が形成され、その周辺帯に肉芽腫性炎の特徴的組織反応がみられる。すなわち核濃縮と豊富な明るい原形質を有する大型の泡沫細胞を主体とする増殖性炎で、その間にリンパ球、形質細胞、喰細胞及び線維芽細胞などが混在する。また散在性に多核の Touton 型細胞が証明さる。またこの肉芽腫性炎に接してコレステリン結晶沈着とこれに対する異物型巨細胞反応が認められることも稀でない。

泡沫細胞及び Touton 型巨細胞は PAS 染色陽性の

細顆粒と、ズグンⅢ陽性の粗大顆粒状の中性脂肪を種々の程度に証明さる。

慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群の泡沫細胞

腎原性及び二次性ネフローゼ症候群の尿管管、間質病変として泡沫細胞が出現することは稀でなく、また末期腎炎に際してしばしば異物型肉芽腫が証明される。この尿管管及び間質の泡沫細胞は特殊染色では、ともにズグンⅢ陽性、PAS 弱陽性顆粒を形質内に認め細胞学的には XGPN と同様の染色所見を呈する。しかし、糸球体腎炎では XGPN にみるごとき、炎症性の強い組織反応に乏しく、少数のリンパ球細胞浸潤を示す程度であり、間質内泡沫細胞は数～数十個の小集塊であり、この周囲の尿管管上皮細胞も多くは類似の泡沫化を示している。また、進行例では多核巨細胞性反応を伴う肉芽腫も証明されることも少なくないが、これは尿管管基底膜障害による尿管管内容物に対する異物反応と考えらる。したがって XGPN の泡沫細胞とは細胞学的には区別し得ないが、間質の炎症性反応は XGPN においては Touton 型多核巨細胞の出現など、組織反応の程度及び質的差異により比較的容易に区別される。

まとめ

XGPN は組織学的に明らかな特異性炎であり、泡沫細胞及び Touton 型巨細胞は、Proteus 感染などに基づく脂質代謝障害に起因する組織球由来細胞であり、異物型多核細胞は尿管管基底膜障害による尿成分の間質内漏出による組織球性反応と理解される。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



Barrie(1948 年)が泡沫細胞肉芽腫性慢性腎盂腎炎を指摘して以来,Xanthogranulomatous pyelonephritis(XGPN)の名称による報告がなされているが,慢性腎盂腎炎で定型的な病理形態像を示す例は稀である。本症の間質に出現する泡沫細胞は,中性脂肪,コレステロール,ムコ多糖類を含有し,その形態像は特徴的であるが,XGPN のみの特異像ではなく,遺伝性腎炎をはじめとして,慢性糸球体腎炎,膜性糸球体腎炎,SLE,糖尿病性腎症など,主としてネフローゼ症候群を呈する疾患に際し,比較的高頻度に関質・尿細管まれに糸球体上皮細胞に証明される。しかしこれら泡沫細胞と XGPN の病理発症については明確にされていない。